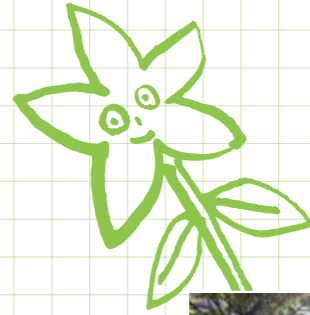




「花」と「みどり」に
彩られた人々に愛される
空間をつくります。

赤坂インターシティ AIR 紹介



1

活動時期 2016年10月～現在 (2017年8月まで施工、以降はメンテナンスを継続)

活動場所 赤坂インターシティAIR (東京都港区赤坂)

大規模複合ビル「赤坂インターシティAIR」の緑地約5,000㎡の植栽工事を担当しました。外構部分には、カヅラやエノキがシンボルツリーとして植えられる山エリア、せせらぎの流れる水景エリア、72本のシラカシ、ソメイヨシノ等が並ぶ街路樹エリアがあります。13階や38階にも緑地があり、地下1階部分にもサンクンガーデン(地下より低いところに作られる庭園)が設けられています。竣工後は自然樹林の調和する姿に倣った植栽・維持管理を行い、外部からの評価も得られ、第18回屋上・壁面緑化技術コンクールでの国土交通大臣賞(屋上緑化部門)の受賞にも至りました。

活動の目的

今回の植栽工事では、「都市空間に自然豊かな緑を作る」というコンセプトに基づいて、完成した時点ですでに完成後数年が経過した森のような仕上がりになることが求められていました。この緑豊かな大規模空間を作るために、この空間を利用する人がどうすれば居心地よく過ごすことができるのかを意識しました。

取り組み成果

施工においては、発注者や設計者の皆さまの想いや意図をしっかり反映させることを目指しました。全ての木々の植え付けや地盤造成の際は、設計担当の方に立ち会っていただき、一つひとつ確認しながら慎重に施工を行いました。現場でも常に顔を合わせ、コミュニケーションを大事にすることで、皆さまの想いをかたちにすることができました。

今後の目標・課題

このような緑地空間は、完成してからの管理がとても重要です。これからずっと長く快適な空間でありつづけるために、定期的に植栽の手入れや巡回を行ったり、ここを利用した人の声にも耳を傾けながら、今よりももっと、誰もが居心地が良いと感じられる空間になるように取り組んでいきたいと思っています。



2



3



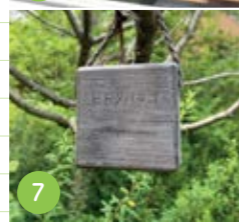
4



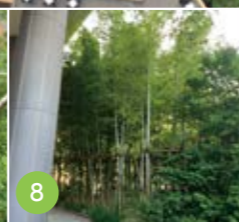
5



6



7



8

- 1 メインの山エリアの中央にはシンボルツリーのカヅラが植えられています。
- 2 街路樹エリアには立派なソメイヨシノやシラカシが立ち並びます。
- 3 植栽の植付けを行う際は、㈱日本設計の設計者の方にも立ち会っていただきました。
- 4 屋上の施工風景です。この後、ここに山が完成するとは想像もできません。
- 5 屋上階からの景観です。たくさんの緑に覆われています。
- 6 たくさんの緑があることで建物がいっそう魅力的に映えています。
- 7 樹名札も景観に馴染む仕様になっています。
- 8 住宅エントランスには竹林があり、和の雰囲気を醸し出しています。



1

2



3

1 区長、町会長、施工者の代表者が参加してテープカットを行いました。2 木と親しみながら遊べるツリークライミングは子供たちに大人気。3 公園の施工状況や材料の一覧を映したパネル展示。

公園を地域に届ける 文京区立六義公園 開園式

活動時期 2019年8月16日

活動場所 文京区立六義公園 (東京都文京区本駒込)

私たちが作りあげた六義公園を、地域の皆さんにとってより親しみのある場所になってほしいという想いを込めて開園式に全面的に協力しました。開園式には区長、地元町会長、施工者の代表者が出席し、テープカットと大型遊具の除幕式を行いました。式典の後は、子供や家族と一緒に楽しめる様々なイベントも企画し、六義公園完成の喜びを地域の皆さんとともに分かち合うとても良い機会になりました。

活動の目的

開園式では、地域の皆さんに公園の開園を広くお知らせすることはもちろん、安全に公園を利用していただくための方法や知識への理解を深めていただき、公園の新たな魅力をお届けしたいと考えました。

取り組み成果

開園式当日は、式典の後にツリークライミングや、遊具についての紹介と公園ができるまでをまとめたパネル展示に加え、来園者には風船などの記念品を配布。200名以上の方に来園いただき、公園の魅力を多くの方に発信することができました。

今後の目標・課題

日比谷アメニスグループでは公園をつくるだけでなく、その後の管理運営まで行っています。施工を手掛けた公園の利用状況なども社内でも共有し、その情報を次の公園造りにも活かしながら、長く地域に愛される公園づくりに今後も取り組んでいきたいです。



せんだい農業園芸センター ライトアップ企画

活動時期 2019年8月10日～2019年8月18日

活動場所 せんだい農業園芸センターみどりの社 (宮城県仙台市若林区)

ひまわりなどの沈床花壇内にある草花をイルミネーションで飾り付け、夜間のライトアップを行いました。通常時期なら普段は立ち入り禁止になっているエリアでしたが、草花をより身近に楽しんでもらえるように散策ができる園路を確保し、来園者に新しい草花のたのしみ方を提案しました。

活動の目的

イルミネーションを使ったライトアップ演出を行い、昼間とはひとあじ違う夜の空間での草花と過ごす時間を体験してもらうことで、夏場の来園者の減少という施設が抱える課題の解決を図りました。

取り組み成果

開催された8日間を通して、9,485人の来園者が夜間イルミネーションを見に足を運んでくださいました。デザインを担当した園地のスタッフをはじめ、企画から施工、実施まで、多くのスタッフの協力のおかげでとても有意義な取り組みとなりました。

今後の目標・課題

普段とは違う新鮮な体験をみんなが待ち望んでいるということが、この企画を通して改めて実感できました。今後も花や緑の新しい楽しみ方を発信できるイベント企画を、続々と展開していきたいです。



沈床花壇内に設置されたイルミネーションを楽しむ来園者たち。



見通しの良いオフィスに植物を配置。奥行き感を意識し空間の広がりを出す。

事務所内での バイオフィリックデザイン

活動時期 2018年11月～2019年2月24日

活動場所 株式会社グリーバル 芝オフィス (東京都港区芝)

現在世界中で注目の「バイオフィリア」(人が自然と繋がっていたいと願う本能的な欲求)をコンセプトに、社員が中心となって新しいオフィスのデザインやレイアウトを考えました。どの席からも緑が見えるように植物を配置し、壁や床材には自然界の素材を取り入れるなど、社員の心身を満ちた空間を演出。また、ワークスペースのフリーアドレス化やコミュニケーションスペースを多く設けて、生産性アップ、創造性アップにつながるオフィスを実現しました。

活動の目的

バイオフィリックデザインがどういったものかを表現したオフィスとすること。グリーバルの緑化製品のショールームとして機能すること。そして何より社員にとって働きやすいオフィスであること。この3つを新オフィスの目的としました。

取り組み成果

社員同士で理想の働き方やオフィスの在り方について意見交換を行ったおかげで、完成後のアンケートの集計結果でも、以前に比べて仕事の意欲が高くなったと答えた社員が約6割、社員間のコミュニケーションが増えたと答えた社員が約7割となりました。

今後の目標・課題

私たちが目指すバイオフィリックデザインはまだ完成形ではありません。社員やお客様に対してよりよい環境を提供するために、オフィスに訪問されたお客様の声も取り入れ、今後も継続的に検討と改善を重ねていきたいと思っています。

活動実施会社 株式会社グリーバル

